

令和2年5月1日

## 創立記念日にあたって — 運針 —

校長 竹鼻志乃

本日5月1日は、豊島岡女子学園の創立から128年目の記念日です。本校は、明治25(1892)年5月1日、河村ツネ先生が新宿区の牛込に開校された女子裁縫専門学校に始まります。その後東京家政女学校・牛込高等女学校と名を変えますが、戦災を被り、昭和23(1948)年この池袋に移転して豊島岡女子学園と改め、今日に至っています。

令和2年度は、生徒の皆さんとの直接の対面がないままに動き出し、本校では当たり前の「毎朝5分間の運針」も全校一斉に始めることができませんでした。本校の伝統の教育を絶やすことなく継続できるよう、そして、全ての生徒の皆さんが毎朝8時15分から学校で行うのと同じように各家庭で取り組めるようにと、急遽、卒業生教員で運針動画を作製し、自宅での学習のための課題・動画配信と一緒に、4月20日より毎朝配信を続けています。

本日は、「運針」という本校創立の精神と伝統を受け継ぐ教育の経緯とねらいを、『百周年記念誌』や『生徒会誌』を紐解き、学び直してみたいと思います。

「毎朝5分間の運針」を教育に取り入れられたのは、二木友吉先生であります。友吉先生は戦後、本校の授業が開始された昭和20年11月1日に就任され、昭和37年から約40年にわたり第5代校長を務められ、80歳を過ぎてもなお、理事長、校長職をこなし、高校1年生の漢文の授業を全クラス担当されました。授業と毎週の朝礼訓話は、友吉先生の豊島岡教育に対する熱い情熱と私たち生徒への深い愛情とが伝わってくるものでした。

友吉先生は、本校が池袋に移転してきた昭和23年のある日、本校の古い時代の歴史を調べるために、明治時代の卒業生数人とお話をした際、卒業生の語っていることの中から、

「あっ、これだ」

と思われたのが「運針」でありました。本校は裁縫を教える学校として出発したため、東京家政女学校では裁縫の時間の始めに必ず「運針」を行い、精神修養と同時に、裁縫の基礎である運針教育が徹底されていたそうです。1年生は白いさらし木綿に赤糸で縫い、2年生は紅絹(もみ)という赤い絹布に白絹糸で縫ったそうで、紅絹は木綿とは違い、非常に縫いにくいのだそうです。友吉先生は、

「あっ、本校の特色を生かしていくためには、この運針というものを、もう一度見直すことが必要である。」

と感じ取り、この「運針」こそ、本校創立の精神を生かすと同時に、本校の特質を発揮するのに最適のものであると感じられたそうです。早速先生方と相談し、学校の日課の中に最も実施しやすい形の中で、しかも昔実施していた以上に創意と工夫を凝らし、新しい指導理念をもって早速実行しようということで、昭和23年の9月2日の朝から、現在の形での「毎朝5分間の運針」が始まったのです。以来71年間、毎朝5分間さらし木綿の布に赤い木綿糸で針を進める「運針」が、同じ形で続いてきたことになります。

「運針」の指導理念は次の4点です。

### 1. 無心になる

物事をなすのに、一心不乱に夢中になって取り組むということは極めて大切なことである。どんなことに対しても、自分のもっているあらゆる能力を振り絞って、真面目に、真剣に取り組む習慣を養いたいものである。そしてその事に当たっているうちは、他の雑念をきれいに捨てて無心になってほしい。忙しい1日のうちに、たとえ5分間の短い時間でも、この運針の時間を通して無我の境にひたり、精神の統一をはかりたい。一つの行である。

### 2. 基礎の大切さを知る

物事にはすべて基礎が大切である。学問をするにも、何かの研究をするにも、基礎的なものを十分に身につけておかなければならない。建築や土木工事をみてごらんください。基礎工事に如何に多くの時間と経費と労力とをかけていることか。しかもそれらは、人目にもつかず、又決して派手なものではない。スポーツを見てごらんください。どのスポーツでも、毎日の練習のはじめには、必ず長い時間をかけて、基本練習に励んでいる。運針は裁縫の基礎である。この一枚の布、一本の針を通して、「基礎の大切さ」を体得させたい。

### 3. 努力の積み重ねが大切である

本校の教育方針の一つに「勤勉努力」があげられている。これこそ物事を成功させうるか否かの分かれ道である。頭脳明晰であり、特殊の才能があるなら、なお一層他人より以上の努力を積み重ねてこそ、始めて他人の追随を許さないものに大きく伸びてゆくのである。入学当初の自分と現在の自分とを比較してみしてほしい。大きな進歩のあることは一目瞭然であろう。これが努力の跡である。運針を通じて、地味な努力の積み重ねが如何に大切なものであるかを悟ってほしいのである。

### 4. 特技を持つ

最後に、我々個人は皆銘々何らかの特技を持っている筈である。これを持たなければならぬし、伸ばさなければならぬ。即ち「一能に専念」しなければならない。同様に学校も本校にしかない独特のものを持たなければならない。本校建学の精神を顧みる時、運針によって本校独特のものをもち、精神の陶冶をはかることが最も望ましいことだと信じている。

友吉先生は「運針」について、「たとえこれが取るに足らない、つまらないものであったにせよ、この長い年月の間、絶えることなく続いてきたことを、更に将来も末長く本校の教育の一環として続いていくであろうことを信じて疑わない。」と記されています。

昨今は「運針」という言葉さえ知らない人がたくさんいますが、上記の指導理念をもった「毎朝5分間の運針」は、時代に遅れて古臭くなるどころか、想定外のことが起こる今のような時代であればこそ、なおさらに重要性を増すものであると考えます。

当たり前の学校生活ができない不自由な毎日の中にいる生徒の皆さんには、ぜひ各家庭で「毎朝5分間の運針」を行い、平常心を鍛えると同時に、改めて本校の伝統を受け継ぎ、新しい本校の歴史を創っていくのは皆さん自身であるという自覚と誇りをもって、日々を過ごしてほしいと願います。「運針」を通して、離れている仲間とも心をつなげ、昔の卒業生から未来の生徒へと、本校の伝統をつなげていきましょう。